武 田 病 院 グ ル ー プ

Vol.08　平成27年11月　発行

医仁会武田総合病院　地域医療連携室だより

救急告示病院　臨床研修指定病院

医療法人　医仁会　**武田総合病院**　発行

京都市伏見区石田森南町28-1

TEL　075-572-6331（代表電話）

理 念

- 思いやりの心

基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利尊重
- 信頼の医療に向けて
- 地球にやさしい環境づくり

環境方針

① 省資源・省エネルギー
② 廃棄物の減量化
③ リサイクルの推進
④ 安全性・快適性の推進
⑤ 環境広報活動の推進

今月の特集

～消化器センターのご紹介～

平素は当院の運営にご尽力賜りありがとうございます。

今月は当院の**消化器センター**のご紹介をさせていただきます。

武田総合病院消化器センターは、6名の常勤医が消化器センターで勤務しております。それぞれ出身大学は異なりますが、各校の特徴を活かしながら、それらを融合させ、より良いチームワークを築き、一丸となり医療に取り組んでおります。また当センターのOBである4名の非常勤の先生にも検査等のお手伝いをしていただいております。

当院の平成26年度実績は上部消化管内視鏡検査は**3961**件、下部内視鏡検査は**1572**件、また治療内視鏡検査として大腸粘膜切除術**366**件、粘膜下層剥離術(ESD)**143**件、胆膵治療内視鏡**257**件。その他にも肝腫瘍に対して、TACEやRFAなども多数施行しています。

消化器センター診療担当医表

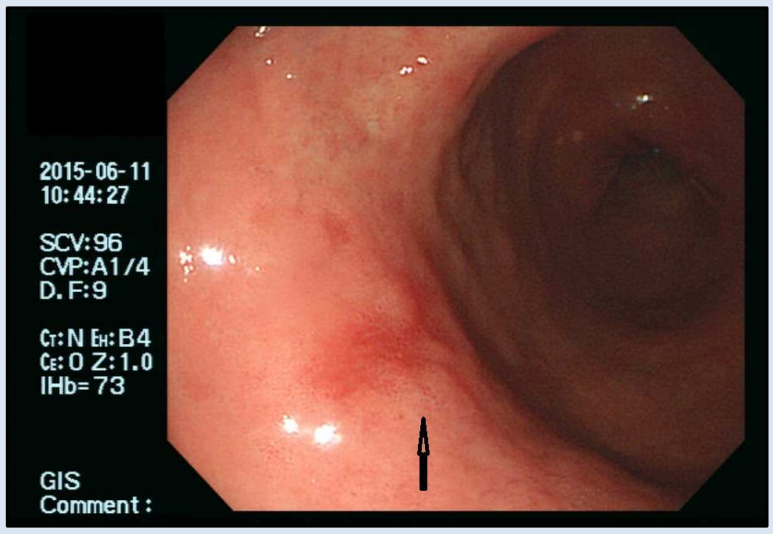
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
松山　希一 **センター長** 京都府立医科大学 昭和62年卒	**柏　敦文** **医長** 京都府立医科大学 平成12年卒	**山口　智裕** 筑波大学医学部 平成22年卒	**藤永　陽介** **医長** 岐阜大学医学部 平成 6年卒	**滝本　見吾** **副部長** 奈良県立医科大学 平成11年卒	**玉置　大** 近畿大学医学部 平成18年卒

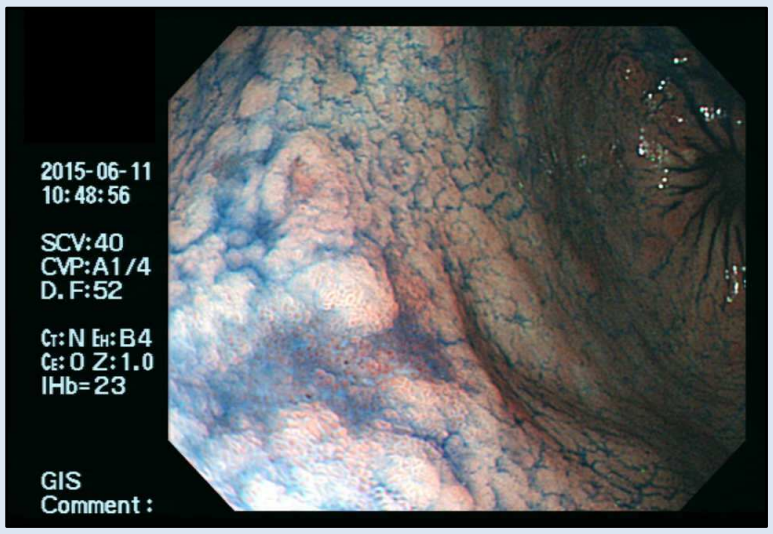
夜診（17:30～）　月曜日　−滝本 見吾　・　木曜日　−松山 希一でもうけております。

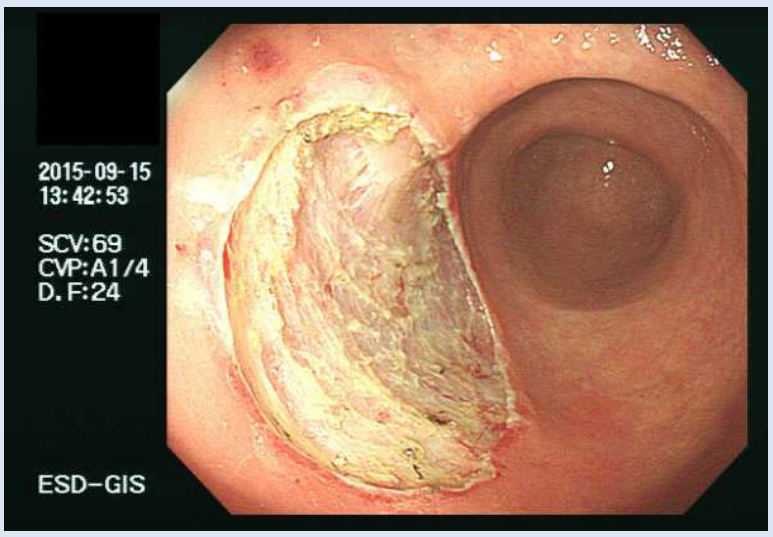
消化管領域での治療例

通常の上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査は当然のことながら、診断精度の向上のためNBIを用いた拡大内視鏡、病変の深達度診断などに音波内視鏡検査(EUS)等を活用し、がんの早期診断・治療に努めております。

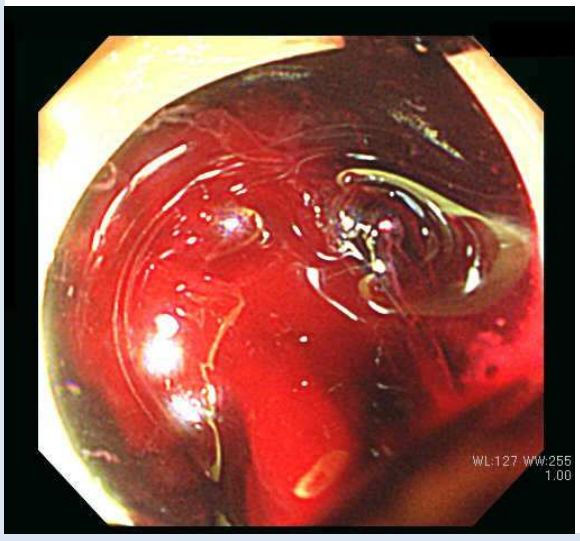
現在では早期の消化管癌に対する内視鏡治療の第一選択ともいえる粘膜下層剥離術(ESD)に関しては滝本 見吾医師を中心に、胃だけでなく、食道や大腸も多数症例を積み重ねています。適応も以前より拡大されております。早期の癌であれば、内視鏡治療でできることもかなり増えています。そのような症例があれば是非紹介頂ければ幸いです。もしある程度粘膜下層に拡がっておれば、外科へ紹介し、速やかに追加手術も可能です。昨今は腹腔鏡下手術が主流となり、患者様の負担も軽減し、入院期間も大幅に縮小しております。

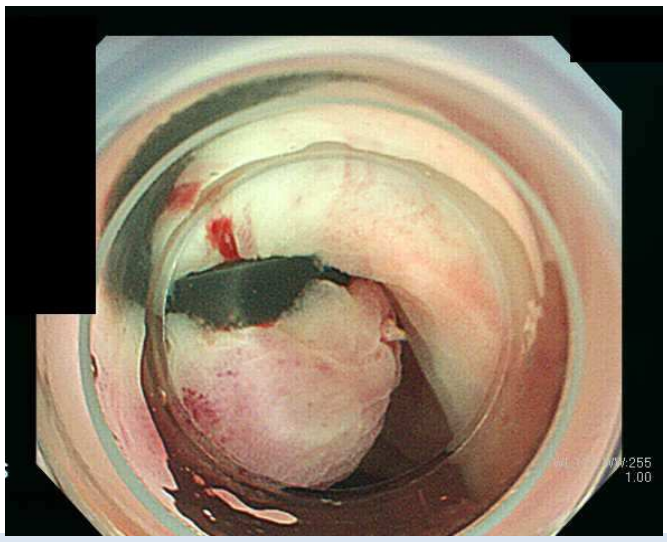


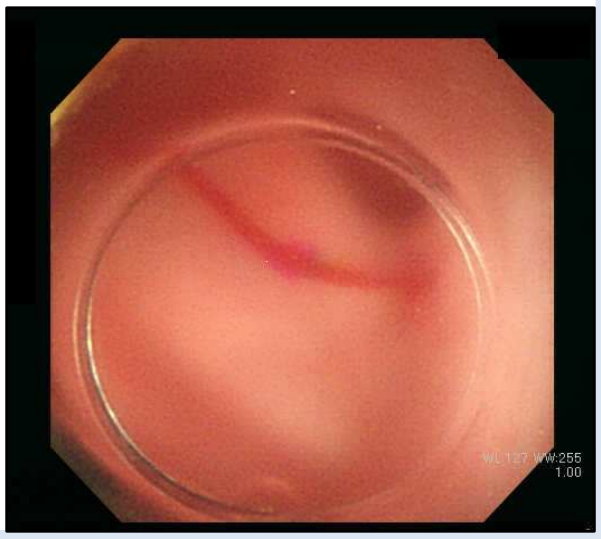




当院では、小腸内視鏡も導入し、原因不明の消化管出血等の検査・治療に努めております。以前は小腸は暗黒の臓器と揶揄されていましたが、小腸内視鏡やカプセル内視鏡（関連の康生会にて検査可能）の導入にて、様々な病変が分かるようになってきました。
また、大腸の憩室出血に関しても、以前はクリップで止血することが多かったのですが、近年食道静脈瘤の治療で用いる結紮術を、大腸でも取り入れ、良好な成績を収めております。他の出血性病変にも応用は可能で、症例は血便にて紹介あり、大腸のDieulafoy潰瘍からの出血であり、出血点を結紮し、止血に成功しております。







肝臓領域での治療例

最近の話題は何と言っても、C型肝炎に対するインターフェロン（IFN）を用いない治療がトピックスです。

平成元年ごろからC型肝炎に対してIFN治療が行われてきましたが、治療効果は期待に沿えないものでした。特に日本人に多い1型（セロタイプ）の方の、治療成績は惨澹たるものでした。その後、リバビリンや、PEG化したIFNの出現にてかなり治療成績がのび、DAAとよばれるウイルスの遺伝子を直接阻害する薬剤がでてきて、治療成績は飛躍的に改善しました。

しかし、IFN中心の治療であることは変わりなく、その副作用である発熱、倦怠感、不眠、精神症状等に悩む患者さんも多数おられました。そのためC型肝炎の治療をあきらめていた方もおられました。

そこに新しく登場したのはダクラタスビル（ダグルインザ）+アスナプレビル（スンベプラ）という薬剤（内服）のみの治療です。ほとんど副作用もなく、入院も不要で、治療効果も極めて高いものでした。当院でも10名以上の方に使用し、ほぼ治癒されています。

現在はソフォスビル（ソバルディー）やソフォスビルとレジパスビルの合剤（ハーボニー）といった薬剤もあり、100%近い治癒率が期待されています。

かなり高齢でも、副作用が少ない点で、使用が可能であり、是非ともC型肝炎でお困りの方がありましたら紹介いただけると幸いです。

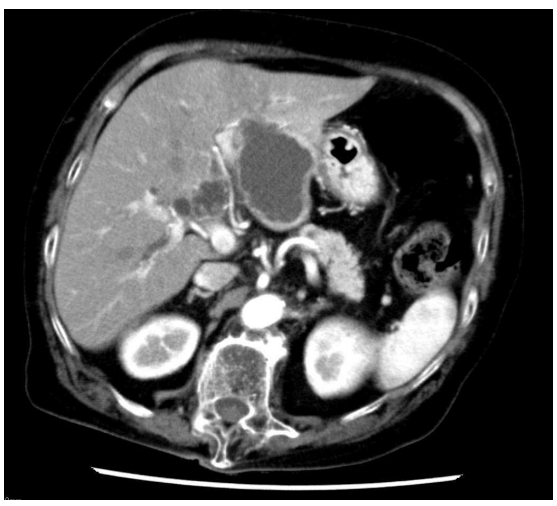
胆嚢領域での治療例

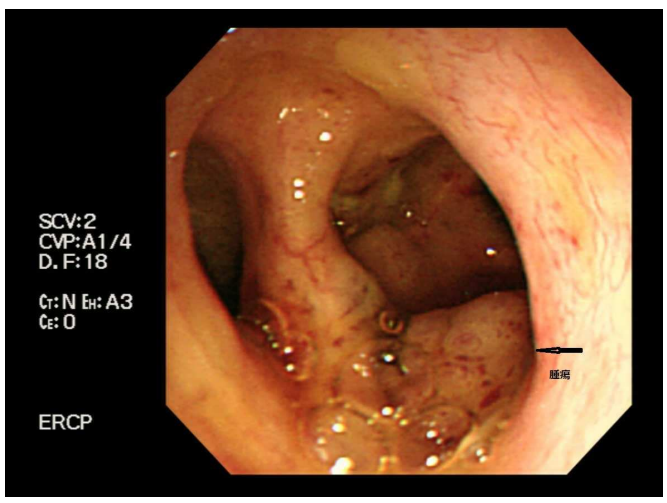
年間250例以上の内視鏡的逆行性胆膵管造影検査(ERCP)を施行し、総胆管結石や悪性腫瘍による、閉塞性黄疸や胆管炎に対して、内視鏡的胆道ドレナージ術(経鼻チユーブによる外瘻(ENBD)、チューブステントによる内瘻(ERBD)や内視鏡的乳頭切開術(EST)、内視鏡的胆管砕石術(EML)、悪性胆道狭窄に対する内視鏡的胆管メタリックステント留置術を多数行っています。

総胆管結石による胆管炎は、敗血症を合併し、重篤になることも多い疾患です。当院では24時間on call体制にて、緊急検査及び処置も可能であります。もちろん人数のそろった時に検査･治療をすることが好ましいのですが。一刻を争う病態もあり得ます。その際には夜間の緊急内視鏡もよく行っております。乳頭切開による結石除去が基本ですが、近年抗凝固剤や抗血小板製剤を服用されていることも多く、その際バルーンによる乳頭拡張を行い、結石除去を行うこともしばしばです。

最近は直接胆道内視鏡も積極的に取り組んでいます。総胆管結石の際、結石除去術後に直接胆道内視鏡を行い、結石の残存がないかを確認しています。

症例はCTやMRIにて総胆管(肝管)にいくつか結節が疑われ、直接胆道内視鏡にて腫瘍を確認し、手術になった1例です。結果は粘液産生性の腫瘍で、癌でした。どの症例にも可能ではありませんが、直接観察にてより診断に近づけることも多く、黄疸や発熱、胆道系酵素の上昇等を訴える方がいれば気軽に相談して頂ければと考えております。





がん相談支援体制のご紹介

がん相談支援

当院では平成２３年より「がん相談支援室」を設置し、「がん」でお悩みの患者さんやご家族の方を対象に、「がん患者相談」を実施しています。これまで、院内に限らず院外からもホームページを見て電話相談される方もあり、年間百件以上の相談に対応しています。

患者さんやご家族が、病気や治療法についてより深く理解し、病気と向き合って頂き、病状や治療の悩みなどを一緒に考えることで、よりよい生活を過ごして頂けるようお手伝いをしています。

また、地域の医療スタッフからの疼痛管理をはじめ、様々な相談に対しても対応させ頂きたいと考えております。患者さんが望む療養環境が整えられるよう、地域の方々との連携に取り組んでいきたいと思います。

緩和ケアチーム

チームメンバーは、消化器内科、外科、呼吸器内科、呼吸器外科、泌尿器科の常勤医師5名と、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師3名、薬剤師3名、心理士2名となっています。

入院中の患者さんや家族からの相談依頼、主治医や担当看護師からの介入依頼があれば、迅速に対応するようにつとめています。昨年度1年間の依頼件数は159件、月平均12件の新規介入をしています。依頼内容の7割は疼痛緩和であり、この他に全身倦怠感、呼吸困難、不安、抑うつ、せん妄などの症状マネジメント、精神的サポートとなっています。

がん性疼痛認定看護師	村井 睦美
緩和ケア認定看護師	佐土 友紀
がん化学療法看護認定看護師	種ヶ島 由紀

【連絡先】地域医療連携室
フリーダイヤル:0120(72)6530
TEL：075(572)6530
FAX：075(572)6276
(Email)：renkei-i@takeda.or.jp
(URL)http://www.takedahp.or.jp/iinkai/

～地域医療連携室より一言～
平素よりお世話になっております。
今号では消化器科についてご案内をさせて頂きました。
12月にはお忙しいところを申し訳ございませんが、年末のご挨拶にお伺いさせていただきます。
今後も、先生方との連携がよりｽﾑｰｽﾞに行えるよう、調整に努力させて頂きます。